

データ利活用に関する 先進的な事例について

令和5年11月14日
国立教育政策研究所
特別調査員 大石 夏紀

本調査について

①調査の目的

- ・国立教育政策研究所データサイエンスセンターは、浜松市とパートナーシップをくみ、浜松市教育総合計画策定に協力している。浜松市より「データ利活用に関する先進的な事例」について策定委員会の中での紹介の要望を受け、それに応えるべくして本調査を行った。

②調査の方法

- ・文部科学省、各自治体等のHP上に掲載されている資料からの情報収集
- ・オンラインによるヒアリング調査

誰一人取り残されない学びの保障に向けた 不登校・いじめ対策等の推進

令和6年度要求・要望額
(前年度予算額)

114億円
(85億円) 文部科学省

背景・課題

○近年、いじめの重大事態の発生件数、不登校児童生徒数、児童生徒の自殺者数等が増加傾向にあり、また、不登校が長期化しているにもかかわらず、学校内外の専門機関等で相談・支援を受けていない小・中学生が4.6万人に上るなど、様々な困難を抱える児童生徒等に対する支援が喫緊の課題。

目標

○「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」（令和5年3月）や「経済財政運営と改革の基本方針2023」（令和5年6月閣議決定）等に基づき、こども家庭庁等の関係機関とも連携を図りながら、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校・いじめ対策等を推進する。

文部科学省 <令和6年度概算要求の概要> 主に教育委員会を通じた対応	
専門家を活用した教育相談体制の整備・関係機関との連携強化等 10,071百万円 (8,461百万円)	いじめ対策・不登校支援等に関する調査研究【委託】 1,323百万円 (50百万円)
①不登校児童生徒の学びの場の確保の推進 <ul style="list-style-type: none"> 不登校特例校（※）の設置準備に加え、新たに設置後の運営支援 <ul style="list-style-type: none"> ※名称変更予定（設置準備：20校、設置後：10校）【拡充】 校内教育支援センター（SSR）の経営促進（3,600校）【新規】 在籍校とつなげたり、自宅にいる児童生徒・保護者へ学習・相談支援を行うための教育支援センターのICT環境の整備（600ヶ所）【新規】 教育支援センターにおける多様な相談・支援体制の強化等（中核市を追加）【拡充】 	いじめ・不登校等の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究 <ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入推進 <ul style="list-style-type: none"> （全部道府県・指定都市等）【新規】 保護者への相談・アウトリーチ等の地域の総合的拠点機能形成 <ul style="list-style-type: none"> （全部道府県・指定都市）【新規】 モデル開発 <ul style="list-style-type: none"> の運用改善に向けた調査研究【新規】 職員向けの研修プログラムの開発【新規】
②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置充実 <ul style="list-style-type: none"> SCの配置（全公立小中学校 27,500校、週4時間） 	③SNS等を活用した教育相談体制の整備推進 <ul style="list-style-type: none"> オンラインを活用した地域的な支援体制整備（全部道府県・政令指定都市）
こども家庭庁 主に教育委員会を通じた対応 <ul style="list-style-type: none"> 学校外からのいじめ解消アプローチ いじめ相談アドバイザー こどもの多様な居場所づくり 等 	学習指導員等の配置 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置 （私立）私立高等学校等経常費助成費補助金（特別補助） 長短教諭等の業務支援体制の充実 夜間中学の設置促進・充実 高等学校における教育の質確保・多様性への対応に関する調査研究 各学校・課程・学科の垣根を越える高等学校改革推進事業

1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の
全国の学校での導入推進

出典：令和6年度 概算要求主要事項 文部科学省初等中等教育局
URL:https://www.mext.go.jp/content/20230828-mxt_kouhou02-000031628_5.pdf

大阪市「スクールダッシュボード」の取組事例

①目的

「ダッシュボード」の活用により、児童生徒、教員、管理職のそれぞれにとって有益なデータ（エビデンス）の見える化を実現し、学級・学校運営の深化充実をめざすこと。

②連携企業

【校務系システム】
EDUCOM（統合型校務支援システム）
【学習系システム】
TOPPAN（デジタルドリルシステム）、DNP（デジタルテストシステム）
EDUCOM（心の天気システム）

出典：文部科学省 教育データの利活用に関する有識者会議（第8回）会議資料
URL:<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoyou/content/000168996.pdf>

③事業予算

令和2年度 3億6,100万円
令和3年度 8億1,100万円

令和2年度はデジタルドリルの学習履歴とデータ連係されたダッシュボードの運用を27校で開始し、ICT環境の整備状況に合わせて全小中学校に拡充し、令和4年度未完了

出典：大阪市HP予算説明資料
URL: <https://www.city.oseka.lg.jp/shisei/category/3060-3-2-0-0-0-0-0-0.html>

大阪市「スクールダッシュボード」の取組事例

①児童生徒ボードの画面

**生活面のアラート
日常所見・共有配慮事項
(生活のようす)**

**学習面のアラート
日常所見・教務必携
共有配慮事項
(学習のようす)**

**学習履歴結果
やるKey単元仕上げ
問題結果 (小学校)
リアテンドント単元
章末テスト結果
(中学校)**

**成績処理の入力データ
・観点表記
・評定表記**

**過去6ヶ月の集計表示
出欠席・健康観察
保健室利用・心の天気**

家庭のようす

児童生徒基本情報

共有配慮事項

**出欠席情報
健康観察記録
心の天気**

青字：校務系データ
赤字：学習系データ

出典：文部科学省 教育データの利活用に関する有識者会議（第8回）会議資料
URL:<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoo/content/000168996.pdf>

大阪市「スクールダッシュボード」の取組事例

②学級ボードの画面

**日ごとの学級
新着・アラート表示**

- ・出欠席情報
- ・健康観察記録
- ・保健室利用記録
- ・日常所見
- ・教務必携
- ・共有配慮事項
(生活のようす、学習のようす)
- ・心の天気
- ・定期テスト/単元テスト結果に基づいた学習面のアラート
(中学校)

学級基本情報

共有配慮事項

青字：校務系データ
赤字：学習系データ

出典：文部科学省 教育データの利活用に関する有識者会議（第8回）会議資料
URL:<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoo/content/000168996.pdf>

大阪市「スクールダッシュボード」の取組事例

③心の天気 児童生徒入力画面・入力データの一覧画面



1日1回、児童生徒がそのときの気持ちに最も近い天気マークを選んで入力



登録時の児童生徒の様子や日々の変化を教員が見取り、声掛けのきっかけへ

④スクールダッシュボード活用の利点

- ・ **個に応じた指導**、学校全体での情報共有による**組織的な支援**に活用できる。
- ・ アラート設定により、支援が必要な子ども、いじめや不登校の早期発見、**未然防止**に役立てる可能性がある。
- ・ 情報を可視化することで、**偏りなく**子どもの情報を得ることができる。
(文部科学省 教育データの利活用に関する有識者会議（第8回）会議資料より)

⑤課題

- ・ ダッシュボードを全市で運用を始めたが、現場での活用率は想定していたほどはあがっていない。
(ヒアリング調査結果より)

出典：文部科学省 教育データの利活用に関する有識者会議（第8回）会議資料
URL:<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoo/content/000168996.pdf>

6

渋谷区「スクールダッシュボード」の取組事例

①目的

教員の子供理解に基づいた指導・支援と子供たちの学校満足度の向上

②連携企業

株式会社ZEAL

出典：教育データの利活用に関する有識者会議(第12回)会議資料
URL:https://www.mext.go.jp/kaigisiryoo/content/20220905-mxt_syoto01-202318_2-2.pdf

③事業予算

令和3年度 15億3,500万円（下記の内容の総額）

- ・ 通信環境の強化
(学校間ネットワーク環境の回線速度を増速させる)
- ・ 多様な教育データの蓄積・収集、データ統合、データ分析や可視化のためのダッシュボードの構築
- ・ 学習者用デジタル教科書の導入等の事業の総額
(R3：モデル校での実証事業、R4：全校導入)

出典：渋谷区HP令和3年度渋谷区当初予算案の概要
URL:https://files.city.shibuya.tokyo.jp/assets/12995aba8b194961be709ba879857f70/23b9300ffb524d6d9042536de2daecb3/assets_kusei_000053709.pdf

7

渋谷区「スクールダッシュボード」の取組事例

①児童・生徒個人状況シート

学校生活アンケート結果

体力テスト(測定値)

欠席・遅刻保健室情報

心の天気

体力テスト(生活習慣)

タブレット利用情報

出典：教育データの活用に関する有識者会議(第12回)会議資料
URL: https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/content/20220905-mxt_syoto01-202318_2-2.pdf

渋谷区「スクールダッシュボード」の取組事例

②クラス状況シート

傾向分類分布

心の天気

HyperQUテスト

欠席・遅刻保健室情報

学校生活アンケート結果

タブレット利用情報

出典：教育データの活用に関する有識者会議(第12回)会議資料
URL: https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/content/20220905-mxt_syoto01-202318_2-2.pdf

渋谷区「スクールダッシュボード」の取組事例

③スクールダッシュボードを活用した現場の教職員の声

【肯定的な意見】

- ・一人一人の情報が容易に把握でき、声掛けや学年での**共通理解を図る素材**として、生徒指導面で大変参考になる。
- ・根拠に基づき適切かつ十分に子供たちへの働きかけができる。**教員の時間短縮**にもつながる。
- ・データの活用により、生み出された時間で、**もっと子供たちと接することができ**、話をじっくり聞ける。
- ・児童が**表面上に表さない思考が分かる**ことにより、初動対応が可能になる。
- ・様子がおかしいと思ってから気付くのではなく、気になる項目にチェックが付いていることにより**先手を打った指導・助言や声掛け**ができる。
- ・気にかけてもらっていることや、教師が**悩み事にダイレクトに対応してくれるという雰囲気や安心感**があると思う。
- ・**いじめ案件に関わった子どもの回答の変化に着目**し、構内のいじめ対策委員会でも活用している。

【否定的な意見】

- ・**データを100%信じるのは危険性がある**。教員の感覚が大切で、そのような力を全教員が身に付けることが必要。
- ・「管理されている」という意識を持たせすぎるのはどうかと思う。**個々人の指導にはあまり使いたくない**。
- ・大量の情報があるがゆえに**見落としも考えられる**。見落としした中に重要な情報がある場合、「なぜ気付かなかったのか？」と問われると**気付いていない側の問題**になってしまう。

出典：教育データの利活用に関する有識者会議(第12回)会議資料
URL: https://www.mext.go.jp/kaijisiryoo/content/20220905-mxt_syoto01-202318_2-2.pdf

④スクールダッシュボード活用の利点

- ・**個別の支援**、情報共有による**組織的な支援につながる**。また、**いじめの未然防止**に役立てる可能性がある。
- ・情報共有にかかる**時間短縮**につながり、生み出された時間で子供たちに関わる時間を増やすことができる。

(報告者の意見)

⑤課題

- ・データ活用に関する教員の考え方に違いがある。(報告者の意見)

10

まとめ (報告者の意見)

- スクールダッシュボードを活用することによって、**個別支援、組織的な支援つなげていくことが可能**。また、**いじめや不登校の未然防止**に役立てる可能性がある。
- アラートやチェック機能により、**配慮・支援が必要な児童生徒の早期発見**につなげていくことも可能
- 教師の日々の見取りに加えて、データからの見取りという違う角度からの見取りによって、**偏りなく子供を見取る**手助けとなる。

- ・教員の経験を補うための手段として
- ・チームとして指導に当たるための手段として
- ・情報共有の時間短縮の手段として

効果的な活用で
様々な利点につながる可能性

重要

- ・多くの予算が必要
- ・各社の学習システムのデータ関係、データの相互運用ができるかなどの導入時の課題
 - ※児童生徒の情報を収集し活用することについて、保護者に説明することも必要
 - ※MEXCBTと連携できるように調達するののも一つの方法
- ・活用方法やその意義を現場の教職員と共有
- ・今後の活用や分析の明確なビジョン
 - ※データ標準化とデータを取り出せる仕組みをつくって、大学や研究機関とともに、実証研究を進める方法もある

11